

OPEN DISCUSSION

ライフミュージアムネットワークでは、地域の文化財を地域の人の手で蘇らせた事例として島根県の「家の女たち」をリサーチしました。本ディスカッションでは、オンラインで「家の女たち」のみなさんから活動をご紹介します。同時に、塩竈の歴史ある建物を地域コミュニティの活動拠点として活用しているミュージアム、誰もが集える場として地域のみなさんともにつくりあげてきた猪苗代のミュージアム、飯館の佐須地区で交流の場の再生を行っているNPO法人、3者から講師をお招きし、「場づくり」「コミュニティづくり」について考えます。ぜひご参加ください。

講師

高田彩氏（ビルド・フルーガス代表 / 塩竈市杉村淳美術館統括 / ライフミュージアムネットワーク実行委員会委員）

岡部兼芳氏（はじまりの美術館 館長 / ライフミュージアムネットワーク実行委員会委員）

田尾陽一氏（認定NPO法人ふくしま再生の会理事長）

モデレーター

青砥和希氏（一般社団法人未来の準備室理事長 / ライフミュージアムネットワーク実行委員会委員）

事例報告

合同会社 家の女たち（代表：太田洋子氏）

オープンディスカッション

コミュニティとミュージアム

場を編む
人を結ぶ

2021.1.17

14:30 ~ 17:00

会場：コミュニティ・カフェEMANON

定員：15名（要申込・先着順）

参加費：無料

申込方法 ▶ 電話か e-mail でお申込ください。

知らなかったことや人と出会い、新しい何かが生まれる場。

ひとりでいても心地よい。誰かと語りあっていい。

その場を大切に思う気持ちが、次の誰かに受け継がれていく。

そんな結び目のような場所一。

Life Museum
Network

文化庁



塩竈・杉村惇美術館



高田彩

2004年エミリー・カー美術大学卒。アーティストネットワークのビルド・フルーガス代表。2006年にギャラリーとしてビルドスペースを開廊。国内外でアートプロジェクトを企画運営。2014年より塩竈市杉村惇美術館統括。子どもたちとアートとの出会いを創り出す活動、地域に根差した美術館づくりを行っている。

田尾陽一



飯館・交流の家

元物理研究者。IT企業経営や、社会システムデザインの実証研究など活動は多岐にわたる。2011年東京電力福島第一原子力発電所事故で全村避難となった飯館村を訪れたことをきっかけに、認定 NPO法人「ふくしま再生の会」を立ち上げ、飯館村を拠点に産業や生活、コミュニティの再生に取り組んでいる。飯館村佐須地区に旧佐須小学校と仮設住宅の建材を再利用した集会所施設「交流の家(仮称)」を2020年にオープン。



オープンディスカッション OPEN DISCUSSION コミュニティとミュージアム COMMUNITY MUSEUM

講師プロフィール



猪苗代・はじまりの美術館



岡部兼芳

福祉作業所の支援員、中学校教員を経て、2003年社会福祉法人安積愛育園入職。知的に障害のある方の創作活動支援プロジェクト「unico(ウーニコ)」に携わる。2013年、はじまりの美術館の開館準備に携わり、2014年から同館館長。「誰もが集える場所」として開設された美術館から、寛容で創造的な社会の実現に向けたきっかけづくりを発信し続けている。

2006年より島根県石見銀山の代表的商家・熊谷家住宅の管理運営にあたる。2001年、熊谷家住宅の保存修理で、主婦7名が家財調査研究にあたったことをきっかけとする。2011年、任意団体「家の女たち」(現合同会社)を立ち上げ、島根県大田市より指定管理を受け、熊谷家住宅の維持管理、展示、館内ガイド、文化財を活用した催しの企画運営を担っている。

合同会社 家の女たち (代表太田洋子氏)



島根・熊谷家住宅

モデレータープロフィール

青砥和希

東日本大震災を機に、若者や高校生が地元福島に関わり合える場づくりを模索。2015年一般社団法人未来の準備室(当時 EMANON準備室)を立ち上げ、福島県白河市内に高校生のサードプレイス「コミュニティ・カフェEMANON」をオープン。次世代と、次世代のために仕事をしたいと思っている人が出会える場を生みだしている。



白河・コミュニティカフェ EMANON

場を編む

会場 コミュニティカフェ EMANON (福島県白河市本町9)

交通のご案内

- JR 東北本線・白河駅から徒歩5分
- JR 東北新幹線・新白河駅からタクシーで10分
- 提携駐車場あり
(パーキングはなすけ:福島県白河市本町58)
その他隣駐車場をご利用ください。

お申し込み・お問合せ

ライフミュージアムネットワーク実行委員会事務局
 ADD 〒965-0807
 福島県会津若松市城東町1-25 (福島県立博物館内)
 TEL 0242-28-6000 (福島県立博物館代表)
 MAIL general-museum@fcs.ed.jp (福島県立博物館代表)
 HP https://general-museum.fcs.ed.jp/page_about/archive/life-museum-network

ライフミュージアムネットワークとは

福島県立博物館は、2011年の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故後、文化庁の支援を受けた「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト」「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」の事務局をつとめ、さまざまな文化芸術による復興支援事業を実施してきました。その過程で浮かび上がってきた課題は、福島、東北、被災地に限らず、日本各地に共通するものであり、解決方法を導き出すべく、広く共有されるべきものでした。それらの課題は【いのち】【くらし】に集約されます。これらは各地の博物館・美術館・資料館・記念館を含むミュージアムの活動の核となっているものであり、ミュージアムに限らず、さまざまな団体、機関も大切にしていることです。東日本大震災後、新たに浮上ってきたミュージアムの使命。それは【いのち(ライフ)】と【くらし(ライフ)】に再び誠実に向き合うことと捉え、ライフミュージアムネットワークでは、同じ志を共有するネットワークを強化・拡大することでミュージアムの社会的使命を拡張していきます。2020年度は、これまでの活動を継続するとともに、ソーシャルインクルージョン、地域資料の利活用とネットワーク構築、地域アイデンティティの再興を軸に、ライフ(いのち・くらし)に向き合うミュージアムの実践を行います。

人を結ぶ